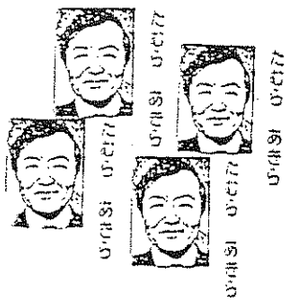
田村ゼミ（都市政策）

法学部政治学科

時限：水曜５限

サブゼミの時限は未定



田村　明（たむら・あきら）

1926年東京生まれ。東京大学法学部・工学部卒。法政大学教授。大阪万国博や横浜市で都市空間の創造をしてきた実務経験豊かな都市学者として知られ、風土と歴史を生かした個性ある都市づくりを提唱する。著書に「都市を計画する」「都市の個性とはなにか」「都市ヨコハマをつくる」「まちづくりの発想」「江戸東京まちづくり物語」などがある。

【田村ゼミのつくりかた】

♠ゼミの内容　都市が抱える様々な問題を１つずつ二人一組（２年生と３年生）で研究しゼミの時間に発表・討論します。また、ゼミ論の発表も時間の許すかぎり行います。
昨年のテーマは、車社会、リサイクル社会、緑・公園、高層ビル、災害、高齢化社会、文化行政、下水道、土地利用規制法、遷都など10テーマでした。

♥ゼミ論　夏休みに、出身地について４００字詰め原稿用紙１０枚で。

♣イベント（昨年度）
- ４月　ゼミ開始、新歓コンパ
- ６月　ディベート大会出場（ｖｓ袖井ゼミ　３－０で勝利）
- ７月　サブゼミ遠足（みなとみらい21・中華街）
- ８月　夏合宿（軽井沢）
- 11月　Ｊリーグ・ナビスコ杯決勝観戦（ヴェルディｖｓエスパルス）
  ゼミ対抗サッカー大会出場（３位）
- 12月　ディベート大会出場（ｖｓ鈴木ゼミ　１－２で敗北）
- １月　フジタ見学
- ２月　就職説明会（３年生のみ）、田村先生と焼肉

◆サブゼミ　研究する内容、人数などは未定ですが必ず行います。研究した内容は、夏合宿で発表します。

田村ゼミ　募集要項

《ゼミ生募集のお知らせ》

『主な課題』

①あなたは何故、都市政策をやりたいのですか？
何か身の回りのことを例にして述べて下さい。

②東京またはあなたの出身地が抱えている問題を一つ挙げ、それに対するあなたの意見を述べて下さい。

③アンケート
１，氏名（ふりがな）２，現在の住所と電話番号
３，出身地の住所と電話番号　４，学年・クラス・学籍番号
５，出身校　６，生年月日　７，所属サークル
８，自己ＰＲ　９，特技・好きなスポーツ・好きな食物
１０，昨年のあなたの三大ニュース（個人的なこと）
１１，出身地以外で思い出に残った場所について

☞それぞれレポート用紙一枚以内で書いて下さい。

地方出身者は優遇します。

募集人数：新２年生　10～12人

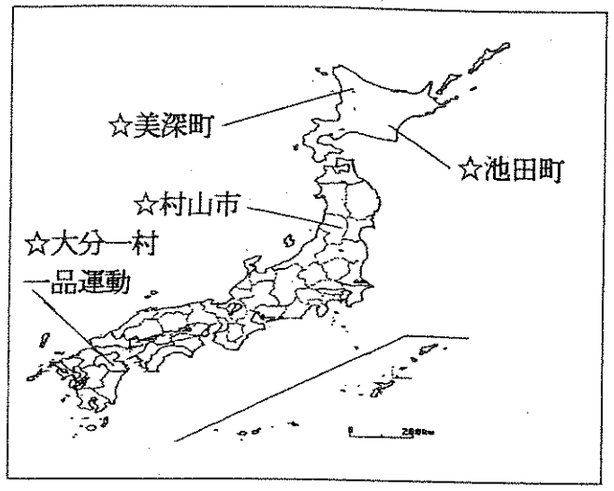
資　　格：法学部の学生で、各行事に熱心に参加してくれる人

試験日程：４／７（木）　課題・アンケート提出
（12:00~12:30 58年館カウンター前）
４／８（金）　課題合格者発表
（ゼミ掲示板・電話連絡でお知らせします）
４／９（土）　課題合格者に個別面接　☞田村先生も参加します
（13:00~　場所は後日お知らせします）
４／12（火）　面接合格者発表
（午前中にゼミ掲示板で発表します）

黒いダイヤでむらおこし ～北海道　美深（びふか）町～

1994, 12, 14 山根 正幸

“びふか”の語源…アイヌ語の「ピウカ」（石の原っぱの意）



§美深の環境

・日本最寒記録（非公式）
　氷点下（41.5）℃（昭和6年）
　（公式記録は旭川市の氷点下（41）℃）
・昭和４６年、豪雪地帯に指定。
・稲作の（ほぼ）北限。
・旧国鉄日本一の赤字ローカル線「美幸線」（昭和60年廃止）のまち。

§美深町の現状

・人口の過疎化
　昭和35年14,046人
　⇨平成５年 6,836人
※H. ２過疎地域に指定。
　（過疎地域活性化特別措置法による）
※年間100 人のペースで減少中。
・高齢化　65歳以上人口は平成５年で昭和35年の２倍に増加。
・地場産業（木材産業）の斜陽。

§チョウザメ、美深に来る。（昭和５８年）

チョウザメ（硬骨魚類チョウザメ目チョウザメ科）
※軟骨魚類のサメとは違う。
※北半球では２８種が生息。
※卵巣卵の塩漬けはキャビアとして珍重される（特にカスピ海産のキャビアが最高らしい。）
※日本では北海道の石狩川・天塩川に遡上する。

○なぜチョウザメなのか？○

・町の森林公園の中に三日月湖と温泉ができた。⇨「折角だから何か変わった魚でも飼うべか。」＆「町の活性化とＰＲの一助に。」⇨「もともと天塩川にも上ってきてるんだし」という水産庁の紹介で三重県の養殖研究所　から稚魚３００匹を譲り受け放流。　※美深に来たチョウザメ→ベステル種（ロシアの水産研究所で採卵目的のために開発）、日・ソ漁業科学協力の一環として“来日”していた。
・現在までに延べ７６０匹を譲り受けている。

§困難を乗り越えて…

初めは

・生態の把握ができず、エサを与えるのに一苦労。
・冬があまりに寒すぎる→体力の消耗。
　⇨稚魚の間は温室で飼育。　　⇨体長２ｍまで成長するようになった。

今度は

・卵をもっているチョウザメが分からない！
　…外見からはオス、メスの見分けがつかない。

さあ、どうする？

⇨卵を持っていそうなのを捕まえて腹を切ってみる。
　持っていなければ、腹を縫って戻す。（！？）

※養殖技術が未熟なのが現状。

⇨そして、平成５年（１９９３）、採卵、キャビアの製造に成功。
※日本国内でチョウザメの養殖に挑戦しているのは、美深町と山形県村山市の２市町。
　キャビアの生産に成功しているのは美深町だけ。

§これからの課題

・専門の技術者の不足…役場職員が研修に出かける状態。
・チョウザメ孵化の技術がない…稚魚の譲り受けに頼る。
⇨技術的に成熟するまでは産業としてスタートするのは難しい。
　現在は観光の目玉としてＰＲするのにとどまる。←在京ＴＶ局の取材。

§その他のむらおこし政策

・特産品のＰＲ。（農産物、しらかばの樹液）
・ゴールドプランによる老齢人口流失の抑止。
・富士重工テストコースの誘致。

むらおこしのいろいろ～ほんの一例～

1，北海道池田町

・「十勝ワイン」のまち　（年間200 万本以上を生産）

→ＣＡＴＶ・老人医療費の無料化で還元　　※「ワイン城」⇨町民の自慢と誇り

↑↓

・深刻な過疎の実態（帯広や札幌へ）

なぜか？

・地元に働き口がない←地場（磁場？）産業の弱さ。

・町に対する“こだわり”がない（特に若年層）。

⇨対外的なＰＲには成功したが、町民のニーズ（雇用）を見誤ってしまった？

2，大分県の「一村一品運動」（提唱；平松守彦知事、昭和５４年～）

・自分の町、村の顔となる特産品で、全国的な評価に耐えうる商品の開発。
・そのことによって、活力に満ちた地域づくりへの意欲を呼び起こす。
・“一・五次産業”…過疎地域の資源を活用してつくる産業、つまり農業の特産品やこれを加工した品物を中心とした地場産業を興す。
（一次産業と二次産業の間という意味）

＝県内の実践例＝

♧姫島村（国東半島突端の島）⇨車エビの養殖

・昭和３５年から始まる→度重なる失敗。

→昭和５６年から根本的な技術革新のスタート

⇩

・年産１４０万トン、８億円以上の売上に。→生きたまま東京へ空輸されている。

・Ｕターンの増加。←→就職先のない女性の村離れ。

♧大山町⇨ＮＰＣ運動（昭和３０年代後半～）

※山間の町で農地がない＆住民所得は県下でブービー、当時の日本は米と麦中心の農政。…「このままではヤバイ！」

第１次…「NEW PLUM CHESTNUT」“梅と栗”　NEW は「新しい基盤づくり」

第２次…「NEW PERSONALITY COMBINATION」運動→“人づくり運動”

※住民同士の結びつきを重視する。

⇩

所得の上昇

→・ハワイ旅行…人口４，７００中６００人以上が経験。

・嫁不足の緩和（解消）

⇨第三次へ…「NEW PARADISE CONSTRUCTION」

※大山町では、老若男女問わずより多くの人が参加できる行事を月一回は開催。

→とにかく刺激を絶やさない事が、まちづくりへの連帯意識を高めていくという考え。

・ＭＰＩＳ…農村多元情報システム→大山町のＣＡＴＶのこと（昭和６２～）

⇨・地域に本当に必要な情報を。　　（スタッフは町の職員）

・地域のコミュニティの形成。“情報による人づくり”

まとめ

§むらおこしに必要なものは何か？

⇨企業誘致も一つの手であるが、地域の特性を生かし、かつ全国的なニーズに答えられる地場産業の育成だけでなく、地域の人々のニーズにも答えられるようなインフラの整備、つまり“モノづくり”と“ヒトづくり”のコンビネーションの拡大再生産も必要ではないだろうか？。

§美深のむらおこしはどうなるか？

◎キャビアの生産が軌道に乗らない以上、地場産業としてスタート出来ない。また、スタートしたとしても、全国的に認められるものになるには、ただ「キャビアやってます」と言っているだけではマズイ。

※「２０００年部会」…町の青年層で構成。⇨「町には大きな企業があるわけでもないし、人口が減るのは仕方がない。」という意見。

※キャビアへの住民の反応→「どうせやるなら途中であきらめるようなことはするな。」…前向きではあるが、すこし客観的。

このままではいくら行政が頑張ってみてもダメ。住民から積極的に行政に働きかけ、あるいは住民の中から運動をおこすような気運が生まれるようにしなければならないだろう。

◎折角『日本一寒い町』というカードを持っているのだから、それをもっとＰＲしても良いのではないだろうか？美深のイベントは、夏に集中している。大山町のように、年間を通じて住民に刺激を与えつづけることをしてほしい。そうすれば住民の中のむらおこしへの主体的な意識が、少しは高まっていくのではないだろうか？

＝質問＝

・あなたに、自分の出身地を全国的に有名にするという使命が課せられました。あなたならどうしますか？

§参考資料　・『地方からの発想』　平松守彦　岩波新書
・『島根ふるさと運動と大分一村一品』　福岡政行　ぎょうせい